

デミー博士って何者？



個人HP：
<https://www.akira-demizu.com/>



個人Facebook：
<https://www.facebook.com/akira.demizu>



個人Twitter：
<https://twitter.com/DemizuAkira>

お問合せ先：demizu@nagasaki-u.ac.jp

土木応援家

出水 亨

(長崎大学 博士(工学))

1979年生まれ
福岡県出身

鳴の土木応援チーム



連載

デミー博士が教える成功する土木広報の極意

第6回(最終回) ● 世界一伝わる土木広報の極意

こんにちは！土木応援家の「デミー博士」です。2020年11月号から6回にわたって「成功する土木広報の極意」について紹介しています。ライフワークとして土木業界のイメージアップや担い手確保のために土木の応援(広報)活動に力を注いでいます。私が関係した活動は500件以上のメディアに取り上げられています。また、(公社)土木学会土木広報大賞やグッドデザイン賞を受賞するなどの高い評価を受けています。このことから建設業の関係機関から注目され、土木広報の協力依頼・相談や講演依頼が殺到しています。

ここでは、私が培ってきた土木広報に関する経験や知見を紹介していきます。内容を読んで話が聞きたい方や土木広報で困っている方がいらっしゃったらお気軽にお声かけください。一緒に土木・建築業を盛り上げて行きましょう！

* *

さて、第5回の「土木広報のPDCAを回そう！」はお読みいただけただしょうか？簡単におさらいをします。土木イベントを実施する際に土木広報のPDCA、特に計画段階でのPDCAを回すことが大切です。PDCAを回すことで洗練され、伝わる土木イベントに近づきます。そこで、第5回では計画段階のPDCAの例としてモニターツアーについて紹介させていただきました。詳しくは3月号をチェックしてみてください。

第6回は「世界一伝わる土木広報の極意」についてお話しします。今回は、最近私が実践している最も効果的な伝え方について紹介します。それは土木と関係ない組織を上手く巻き込んで(味方にして)一緒に広報する方法です。その一例を紹介します。昨年、私は長崎県新上五島町(九州最西端の島で長崎県・五島列島の北部に位置する)の建設会社から工事現場で開催する土木体験イベントの協力要請を受けました。山を削って道路を拡幅する現場で規模が小さく、特殊車両や特殊工法もなく話題作りが難しい場所でした。さらに離島であるため新聞やテレビなどの関係者がほとんどいないことから、大きな話題性がないとメディアに取り上げられません。

* *

そのような中、私は「イベント新聞を作って回覧板で配る広報」を提案しました。しかし、『建設会社で作った新聞を地域の人が読むのだろうか？』という考えに至りました。『読んで貰えなければ作る意味がない。どんな新聞なら読んで貰えるのか？』と自問自答を繰り返して自宅の湯舟につかっている時(お風呂で思いつくことが多い)に、『子供たちに新聞を作ってもらえば、地域の人に興味を持って読んでくれるはず！』というアイデアが浮かびました。

そこで私は、親友で元新聞記者の竹内章氏(新

上五島町在住)に相談して地元の高校の写真部に新聞作りを要請することにしました。アイデアとしては、写真部の生徒にイベントの写真撮影や参加者へのインタビューをしてもらい、これらの情報を元に新聞を作る流れ。竹内氏から『記者は取材する前に取材対象のことを勉強する』というヒントをもらい、事前にオンライン(ZOOMを使用)で建設業の魅力について講義を行いました。竹内氏は新聞の作り方やインタビューの仕方について講義を行いました。講義は好評で生徒から「建設業の仕事をしてみたい!」など建設業に対する嬉しいメッセージを頂きました。生徒が作成した新聞は回覧板として地域に配布され多くの人に読まれ好評だったと聞いています。また、先生から『生徒が積極的に取材や新聞作りに参加したことにビックリした。協力させてもらって本当に良かったです』とお礼の言葉を頂きました。結果として、この取り組みが話題を呼び、新聞に大きく取り上げられました。(笑)

いかがでしたか? 土木と関係ない組織でもお互いに興味や共通点を見つけ出すことで新しいコラボを生み出すことができます。ぜひいろんな組織とのコラボにチャレンジしてみてください。

* *

今回を含め全6回にわたってお伝えしてきた内容は私が長年の活動で培ってきた効果的な土木広報のやり方や考え方です。ぜひ、読者の皆さんに実践してもらいたいと思います。また、私が提案した手法は、どんな業種でも使えるので周りに広めていただければと思います。

上五島ドボク新聞

臨時号
R3年1月

発行 竹内章、出水享
編集 上五島高校
協力 大室建設、長崎県

「砂すくうの楽しいね」



「土木のお仕事」の大切さやおもしろさを知ってもらおうイベント「親子の現場見学会」が十二月二十日、新上五島町榎津郷の魚目小学校前の工事現場で開かれ、町内の親子連れ約三十人が、土木工事のおもしろさや大切さを学びました。



このイベントは、魚目小学校前の工事現場で働く作業員さんが発案、仕事を請け負っている大室建設が主催し、長崎大学

■編集後記

土木は英語で「Civil Engineering」といいます。「Civil」は市民、「Engineering」は技術の意味です。道、橋、トンネル、ダム、水道、公園、港など私たちの生活に欠かせないインフラのほとんどが土木の仕事で造られ、守られています。私たちが当たり前の生活が送れるのは土木のお陰なんです。(長崎大学・出水享 博士)

の土木学者・出水享「あきらさん」も企画面などで協力しました。

イベントでは、出水さんが、土木が身近なところで役立っていることなど説明したあと、魚目小前の道路拡張工事現場で子どもたちがシヨベルで砂をすくいあげたり金づちで杭を打ち付けたりする作業に挑戦しました。

シヨベルカーに乘った小林美結さんは「砂をすくうのが楽しかったです」と笑顔。一緒に参加した父の小林雄二さんも「日ごろなかなか体験できないことばかりで、娘にとってとても貴重な経験になりました」と感謝して

◆ 上五島ドボク新聞は、上五島高校写真部(顧問 野本康彦先生・江口元基君が写真撮影や取材を担当し、写真部が作成しました。

◆ 主催者・大室建設の松尾恵一さんは「思っていた以上にたくさんの方に参加して頂き、とてもありがたいです。工事への理解も深まりました」と話していました。

上五島ドボク新聞

私の目標は2030年までに小学生がなりたい職業で建設業が5位以内にランクインすることです。そのため今後も土木広報のトップランナーとして全力で建設業の皆さんを応援(広報)していきます。最後に私の広報に通じる生きるモットー『元気・勇気・やる気があれば何でもできる!』を皆さんにお伝えして「デミー博士が教える成功する土木広報の極意」を締めさせていただきます。今までご愛読ありがとうございました、建設業を盛り上げる活動で皆様にお会いできる日を楽しみにしています。